

特別寄稿



フロリダ滞在記

Stay in Florida

京大大学生存圏研究所 三谷 友彦

Kyoto University Tomohiko Mitani

〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄,

e-mail: mitani@rishi.kyoto-u.ac.jp

この度、京都大学若手人材海外派遣事業「ジョン万プログラム」の支援を受けて、アメリカ・フロリダ大学(University of Florida)に客員研究員として2017年9月から2018年9月までの1年間滞在する機会を頂きました。今回はフロリダ滞在記としてここにご紹介させていただきます。

フロリダ大学はフロリダ州ゲインズビルにある州立大学です。ゲインズビルはフロリダ半島の付け根の中心あたりに位置する人口13万人程度の市で、日本の屋久島とほぼ同じ緯度にあります。フロリダ州内主要都市までの車での移動時間は、ディズニーワールドリゾートのあるオーランドまで約2時間、タンパまで約2時間、ジャクソンビルまで約1時間半、南部最大の都市マイアミまで約5時間と、どこに行くにしても結構な時間がかかる場所に位置します。ちなみに、Microwave Chemistryで著名なProf. Stiegmanが所属するフロリダ州立大学(Florida State University)は、ゲインズビルから車で2時間半ほどのフロリダ州の州都タラハシーにあります。フロリダ大学とフロリダ州立大学は、どちらも州立大学で場所も近いため、大学スポーツ等ではライバル校として扱われているようです。

フロリダ大学は、学生数52,000名強(うち学部生35,000名強)、教職員数31,000名強(うち教員数5,000名強)の非常に大規模な総合大学で、日本の一般的な総合大学の学部に加えて芸術、ジャーナリズム、歯学等の16の学部(カレッジ)があり、大学病院もあります。また、フロリダ大学は大学スポーツが盛んで、アメリカンフットボールをはじめ様々な競技で数多くの実績があります。滞在期間中には男子野球と女子ソフトボールが地区チャンピオンに輝き、実際に生観戦した女子ソフトボールの地区優勝決定戦では逆転サヨナラホームランで優勝が決まるという劇的な試合を楽しむことができました。

フロリダ大学に到着した際の第一印象は何とんでもなくキャンパスの広さであり、とても全てを徒歩で回れるような広さではありません。遠隔地を含めたフロリダ大学の総面積は2,000エーカー(約8.1平方キロメートル)にもなるそうです。キャンパスが広大なことも一因かもしれませんが、ゲインズビルではフロリダ大学のIDを見せれば市内バス(片道1.5

ドル)に無料で乗車できるという素晴らしいサービスがあります。バス運賃はフロリダ大学が立て替えているようなので、学生勧誘のためのサービスの一環とも言えます。また、フロリダと言えば「ワニ」を連想されると思いますが、フロリダ大学構内にある湖や池にもワニが住んでいます。大学構内に限らずフロリダには湖や湧水が多く、水辺には「ワニに注意！」という看板が至る場所に立てられています。いくら注意しても道端でワニに遭遇したらどうにもならない気がします。

フロリダ大学では、Prof. Jenshan Linのもとに滞在し、主にマイクロ波帯での無線電力伝送の研究を実施しました。滞在中には、マイクロ波加熱に関する国際団体IMPI(International Microwave Power Institute)が主催するシンポジウムにも参加し研究発表を行いました。IMPIシンポジウムは、2016年(マイアミ)、2017年(オーランド)と2年連続フロリダ州での開催でしたが、2018年はフロリダ州(東海岸)とは真反対の西海岸カリフォルニア州ロングビーチ開催でした。東海岸と西海岸では時差が3時間、飛行機直行便で約5時間かかるので、日本からタイ辺りに海外出張するような感覚でした。ただし飛行機は国内線で、当然食事は出ません。

研究活動以外にも、私がたまたま茶道を習っているというご縁でフロリダ大学内の日本文化を学ぶ文化部で茶道のデモンストレーションをするなど、在校生と触れ合う機会を持つこともできました。また、フロリダ州にはディズニーワールドをはじめ様々な施設もありますが、今回の滞在で最も感動的だったことのひとつが、ケネディ宇宙センターで2018年2月6日に実施されたSpace X社Falcon Heavy一号機の打ち上げを生で見たことです。打ち上げ写真等の詳細は、生存圏フォーラム(<http://www.rish.kyoto-u.ac.jp/?lang=forum>)の連載コラム第28回に寄稿しましたので、そちらも是非ご覧ください。(生存圏フォーラムへの入会は無料ですので、是非入会のご検討もお願い致します。)

最後になりましたが、今回の長期滞在の機会を与えて下さったProf. Linをはじめ研究室やフロリダ大学関係者の皆様、現地で大変お世話になったゲインズビル日本人会の皆様、支援下さった京都大学、ならびに筆者の不在時に様々なご対応を頂きました皆様に深く感謝申し上げます。

